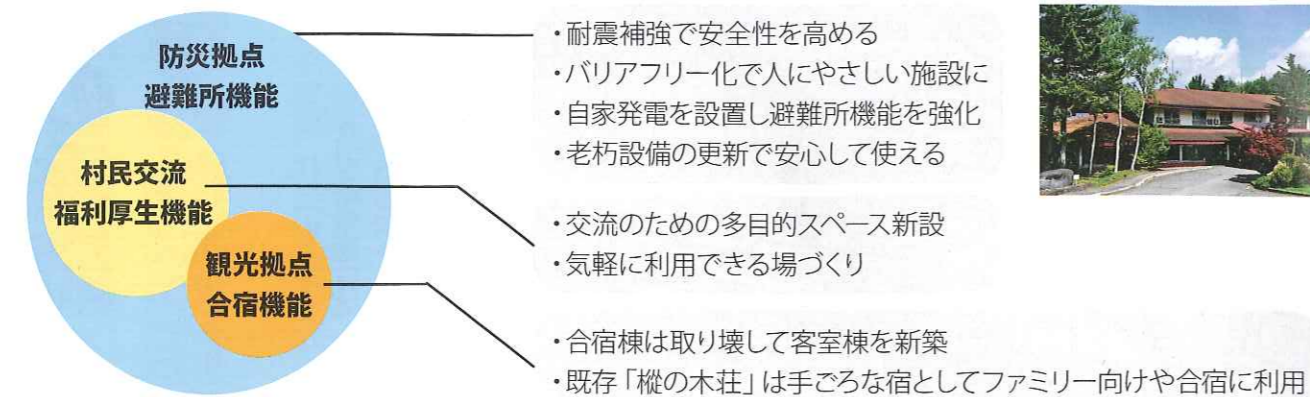


3.整備の考え方…既存建物を活かしながら3つの機能を持つ複合施設へ

○重点的な3つの機能



○縦の木荘平面図と各建物の整備の方向性

本館は改装し2階を合宿やファミリー利用向け客室に。1階には住民が集まるフリースペースを設置。新しい客室棟は木造平屋建てで2~4名で利用できる8室、計約120坪を検討しています。



工事内容と必要経費

- A.改修工事**
(耐震補強工事及び内外装改修工事)
推定工事費 2億9千万円
- B.新築工事**
(合宿棟撤去造成工事及び客室棟新築工事)
推定工事費 1億9千万円
- A+B概算工事費合計 4億8千万円**
(算定資料:国土交通省、(財)建設物価調査会)

4.建設に伴うコンセプト…これからの縦の木荘の役割は「原村の魅力を伝える」こと

- ・誰もが気軽に集える憩いと交流の場所
- ・周囲の景観と調和した静かで落ち着いた場所
- ・静かな自然に囲まれた高原の温泉宿
- ・満天の星、星の降る里を堪能

住民説明会でいただいたご意見等

- ・村の魅力を発信する施設であり、憩いの場としての空間整備を
- ・収益予測をより良いものにすべき
- ・もみの湯と連携した施設づくりをのぞむ
(平成29年10月10日開催)

5.今後の予定

- ・平成29年度12月議会に縦の木荘改修についての実施設計補正予算を計上
- ・平成30年度当初予算に縦の木荘改修についての予算を計上
- ・平成30年5月~平成31年3月は工事のため休館
- ・平成31年4月オープンを目指す

6.将来の検討事項

耐震補強を行っても建物自体の耐用年数には影響がなく、耐用年数の満了する約30年後には建て替えが必要になります。

参考金額として、仮に現在の縦の木荘と合宿棟と同規模の施設(1,732㎡)を新築する場合は、撤去・新築・外構を合わせて現在の試算で約12億円必要と考えられます。

今後とも縦の木荘の耐震補強・改修工事につきまして、皆さまのご理解・ご協力をお願いします。

商工観光課 商工観光係 ☎79-7929

レストハウス 縦の木荘 耐震補強・改修計画について

~おもてなしの心で改修、防災や交流の拠点に~

1.これまでの経過…住民アンケートから第2回住民説明会まで

平成25年	11月	・村民アンケートを実施し、アンケート結果では63.7%の方が存続に賛成
平成26年	3月	・村民懇談会
	11月17日	・縦の木荘検討委員会で6回にわたり検討後「新築が望ましい」との答申
平成28年	8月1日	・縦の木荘建設委員会で10回にわたり検討後、最終案を報告
平成28年	8月	・第1回目の住民説明会を開催
		・村の財政状況を鑑み計画の見直しを行うことを決定
		※縦の木荘建て替え計画の見直しについては、村ホームページの他、広報はら平成28年12月号に詳細が掲載されています。
	11月	・縦の木荘の現状や改修可能かを判断するため耐震診断の実施を決定
平成29年	7月~9月	・耐震診断の結果を受け建設委員会で再検討
		・建設委員会より「残せるものは残して、改修する」ことが提案される
	10月2日	・建設委員会で意見が集約される
	10月6日	・村議会の全員協議会で報告
	10月10日	・第2回目の住民説明会を開催

2.現状と課題…耐震診断によって浮かび上がる縦の木荘の姿

○縦の木荘の耐震診断実施とその結果

平成29年3月に耐震診断を終了し、その診断結果は耐震補強が必要ではあるが、思ったよりも状態が良いことが判明しました。平成29年7月の「縦の木荘建設委員会」では診断結果を報告するとともに、村の財政状況を鑑みできるだけ経費をかけないスリムな宿泊施設の検討を依頼しました。「既存施設の耐震補強及び改修」または「規模縮小での新築」という方向性で再検討されました。

村からは重点となる3つの機能と、経費として当初計画の半分以下である5億円を目安として提案いたしました。

縦の木荘の耐震結果

階	場所	Is値
1	南北方向	0.30
	東西方向	0.27
2	南北方向	0.90
	東西方向	0.58

Is値とは、構造耐震指標のことをいい、「0.6以上あれば倒壊、または崩壊する危険が低い」とされています。

縦の木荘を補強するにあたり、Is値0.8以上を見込めば、30年程度の延命が可能と判断されました。

○耐震補強以外に改修すべき部分

縦の木荘は建築後40年以上が経過し、老朽化の目立つ部分が多い他、厨房設備等の改善が必要です。

サービス面では空調が不十分で、夏暑く冬寒い、各部屋にトイレがないといった問題があります。



傷みが目立つ本館の屋根



老朽化した合宿棟